大沢公民館へのアクセス

交通案内

◎神姫バス姫路駅北口86番線(江鮒団地経由福崎駅前行き)
大沢バス停下車 徒歩1分
◎神姫バス福崎駅前86番線(江鮒団地経由姫路駅前行き)
大沢バス停下車 徒歩1分
◎JR播但線 溝口駅より東へ約2km
◎中国縦貫道路 福崎IC出口より南へ約2km
◎播但連絡道路 船津出口より北へ約2km

連絡先

◎清水　清　090-8575-2011
◎清水英明　090-4903-2702
◎小林庄蔵　090-2593-9482

中播磨県民センター 中播磨地域づくり活動応援事業

大沢公民館・銀の馬車道ギャラリー

〒679-2101 姫路市船津町5289-1

大沢(おおざわ)公民館

銀の馬車道ギャラリー

大沢公民館

現在の大沢公民館は、昭和28年（1953年）頃に船津小学校の２教室分を移築し、数年掛けて造作を行い完成させたものです。移築、造作等全て大沢地区の住民のみで行ったと言われています。

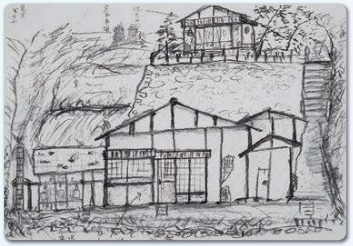
集会所としてだけでなく、時代劇の上映、芝居が演じられたりと、住民の憩いの場として長く利用されてきました。

下のスケッチは昭和初期の姿を描いており、大正初期に建てられた「太子堂」が現公民館の場所にあり、当時の釣り鐘は今も玄関につるされています。

銀の馬車道
コンサート

玄関付近

住民が演じる芝居風景（昭和28年頃）



昭和初期のスケッチ

館内東北面

「銀の馬車道」の紹介

明治９年に僅か３年という短期間で完成させた「生野鉱山寮馬車道」（「銀の馬車道」）は、日本初の高速産業道路で、北は生野鉱山から南の飾磨津まで49kmを結び、鉱山の近代化に大いに貢献しました。150年前、若きレオン・シスレーが歩く往時の姿が偲ばれます。

このコーナーでは、生野から神河町、市川町、福崎町、姫路市に至る現在の風景を写真パネルで紹介しています。

また、裏面コーナーでは、「銀の馬車道」を利用して工事が進められた、西光寺野開拓の様子を当時の写真で紹介しています。

生野銀山に向けて走り抜ける馬車（大正4年頃）

現代の風景（令和3年）

人参役所の長屋門

江戸時代の末期、姫路藩の財政立て直しの為、当地で朝鮮人参の栽培が始まり、文久２年（1862年）姫路藩人参製法方 岡庭小兵衛 が役宅をこの地に設けました。（人参役所と呼ばれた）

明治８年（1875年）には岡庭家は酒造業に転じ、現在に至ります。（岡庭家については、館内北西面で紹介）

上の写真は、人参役所当時の門と伝えられており、150年以上の歴史を誇っています。

館内展示

姫路城大天守の鯱

写真右の鯱は姫路城初代の、左は３代目の天守に使用された鯱の復元品で、いずれも当地の有名な鬼師であった小林平一氏の作で、当時のものを忠実に再現しています。

中央の「金の平瓦」は、昭和の大修理の際、壁や遺構から発見された現物から型取りしたもので、城主池田家の家紋が描かれています。これも小林平一氏の作です。

鯱は1基約200kgの重さがあります。

3代目鯱（復元品）の搬入

館内西北面

瓦の町 船津

良質の粘土の存在が、江戸時代前期より知られていた大沢地区に、文化２年（西暦1805年）姫路藩御用瓦師 小林久右衛門 が瓦窯を築き、以降神崎いぶし瓦（船津瓦）の一大生産地となり、最盛期には十数軒の瓦窯があった。特に大沢地区は「銀の馬車道」の「立場（たてば）」（公設の休憩所）であったところから、この地の瓦を「立場瓦」と呼んでいました。

神崎いぶし瓦は現在、光洋製瓦㈱によって受け継がれ、製造技術を生かした新製品の開発も行っています。

館内南西面

郷土の偉人の紹介

郷土である船津町からは、著名な

歴史学者	三上 参次 氏
洋 画 家	尾田　龍 氏
グラヴィール作家	青野 武市 氏
日本画家	青田 賢蔵 氏

等、多くの偉人を輩出しています。

館内には、これらの方々の作品等を展示しており、その偉業を見ることができます。

上の写真は、青田賢蔵氏の「映る」と題する百号の大作です。

尾田 龍画伯

三上参次顕彰碑